

# COVID - 19 ワクチン接種を考慮する妊婦さんならびに妊娠を希望する方へ

日本産婦人科感染症学会

日本産科婦人科学会

令和3年1月27日

日本産婦人科感染症学会および日本産科婦人科学会が、下記の提言を出しました。

1. COVID - 19 ワクチンは、現時点で妊婦に対する安全性、特に中・長期的な副反応、胎児および出生児への安全性は確立していない。
2. 流行拡大の現状を踏まえて、妊婦をワクチン接種対象から除外することはしない。接種する場合には、長期的な副反応は不明で、胎児および出生児への安全性は確立していないことを接種前に十分に説明する。同意を得た上で接種し、その後30分は院内での経過観察が必要である。器官形成期（妊娠12週まで）は、ワクチン接種を避ける。母児管理のできる産婦人科施設等で接種を受け、なるべく接種前と後にエコー検査などで胎児心拍を確認する。
3. 感染リスクが高い医療従事者、重症化リスクがある可能性がある肥満や糖尿病など基礎疾患を合併している方は、ワクチン接種を考慮する。
4. 男性は、家庭での感染を防ぐためにワクチン接種を考慮する。
5. 妊娠を希望される女性は、可能であれば妊娠する前に接種を受けるようにする。（生ワクチンではないので、接種後長期の避妊は必要ない。）

当院では月経直後の接種、接種後約1ヶ月の避妊をおすすめします。

# ワクチンの有効性・副作用について

大分大学医学部医療安全管理医学講座

平松 和史 教授 のご講演より

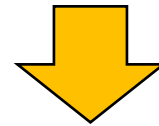
- ・ 日本国民全員がワクチンを接種した場合、  
重篤な副作用は（呼吸困難、アナフィラキシーショックなど）

200 人 / 1 億人

- ・ もし日本国民の半分しかワクチン接種しなければ…

（COVID-19 感染による死亡率 2%のため）

2,000,000 人 / 1 億人 が死亡 !!



早く元の生活にもどり安心して治療を受けられるよう  
ワクチン接種をご検討ください。